Asiam

2017 年 3 月 6 日

シノペックの投資額 3 兆 3,000 億円 4 大石油化学工業基地建設計画

3 月 2 日、中国石油化工集団公司（Sinopec）は第 13 次 5 ヵ年計画期に 2,000 億元（3 兆 3,780 億円、1 元＝16.89 円計算）を投入して、広東省の茂名と湛江、江蘇省の鎮海、上海市、江蘇省の南京に石油及び石油化学工業基地を建設すると公表した。この 4 つの基地の精製能力は合計 1.3 億トン/年（260 万 B/D）になり、Sinopec の精製能力の 45%を占め、中国の精製能力全体の 17%を占めることになる。また、4 つの基地のエチレンの生産能力は 900 万トン/年になり、Sinopec 全体の 65%、中国全体の 31%を占める。

報道によると、昨年 12 月 20 日、湛江市での建設工事が始まり、2019 年に完成する予定である。湛江の建設工事は既存の茂明石化と一体であり、精製能力は合計 3,500 万トン/年（70 万 B/D）に達する。但し、Sinopec の王玉普総裁によると、Sinopec は内部で生産構造を調整し、新規精製能力の建設と同時に老化精製設備の淘汰を進めるため、精製能力全体は増えない[1]。

すなわち、Sinopec の投資の目的は生産能力の拡大ではなく、生産効率の向上、原油調達の利便化、生産の集約、製品生産の最適化を通じて競争力を強化することにある。2016 年末時点で中国の製油所は 240 ヵ所、平均精製能力は 308 万トン/年（6.2 万 B/D）であり、世界平均の 742 万トン/年（14.8 万 B/D）を下回る。2016 年の石油精製業の純利益は 1,700 億元（2 兆 8,713 億円）に上ったが、設備の稼動率は低く、精製能力が過剰を来している一方で、高付加価値製品の生産能力は低いという矛盾が付きまとう。上掲の茂名・湛江の他、鎮海石化基地の精製能力は 3,300～3,800 万トン/年（66～76 万 B/D）、エチレン生産能力はなり 180～220 万トン/年、上海基地は精製能力 2,600 万トン/年（52 万 B/D）、エチレン生産能力 259 万トン/年、南京基地は精製能力 3,600 万トン/年（72 万 B/D）、エチレン生産能力 240 万トン/年になる見通しである

Sinopec 計画部の戴照明主任（部長）によると、Sinopec は、基地の建設に当たっては原則として精製能力を制限し、石油製品品質の改良、化学原料の生産拡大と同時に、製品構造の最適化や付加価値が高い化学製品市場の拡大を進め、輸入に対する依存度を引き下げる。

一方、国家統計局の「2016 年のエネルギー生産情況」[2]（以下、「生産情況」と略す）によると、2016 年の原油輸入は 3 億 8,101 万トン（772 万 B/D）、前年比 13.6%増加し、2016 年の原油の対外依存度は 66.8%に達した。2016 年の原油精製量は 5 億 4,101 万トン（1,096 万 B/D）、3.6%増である。原油の国内生産量と輸入量および精製量をもとに計算すると、2016 年の原油在庫は 3,969 万トン（80.4 万 B/D）増えた。他方、「生産情況」によると、国内需要が頭打ちのため、石油製品の輸出が急増し、輸出量の対前年比の伸び率は、ガソリン 64.5%、ディーゼル 115.1%、灯油 6.0%に達した。

以上の Sinopec の 4 大石油化学基地計画と精製能力、エチレン生産能力の拡充、精製能力過剰

[1] 中国能源網（http://www.china5e.com/news/news-979921-1.html）
[2] 国家統計局「2016 年能源生産情況」2 月 28 日（http://www.stats.gov.cn/tjsj/zxfb/201702/t20170228_1467575.html）

など中国の石油化学工業の状況、さらに、2016 年の中国の原油輸入の増加や、特に石油製品輸出の大幅な拡大といった諸状況を考えると、Sinopec を初めとする中国の製油企業が石油製品の質と効率の向上をさらに進め、輸出をより一層増やすことは必然の流れになると予想される。

（エイジアム研究所 首席研究員　張 継偉）

Asiam Research Institute　http://www.asiam.co.jp/